

日本女子体育大学
Dance Letter Vol.35

3年生パフォーマンス

藤本舞(4年) 坂本研究室

今回、3年生パフォーマンス・坂本研究室作品の振付者を務めさせて頂きました。3年生は、授業などを含め学内・学外での活動がそれぞれ忙しくなる時期です。そのような中で一回一回の作品練習を着実にやっていく必要があったため、本番までの短い期間でどれだけ作品全体の温度を上げていくことができるかということが一番意識して取り組みました。

研究室には、今までモダンダンスを経験して得たことを活かしたいと思い入った人と、反対に、自分のジャンルではなくてもモダンダンスに挑戦したいと思い入った人がいます。そのため、振付者としてどちらの立場も理解し、それぞれが支え合える環境を作れるように努めたいと思いました。不安もありましたが、仲間からアイデアをもらうことなど、ダンサーとしても新たに学べるのが沢山あり、とても充実した日々を過ごすことができたと思います。

今までは3年生パフォーマンスにスタッフとして関わってきたため、毎年3年生のキラキラとした姿を間近で観てきましたが、そんな憧れの舞台に自分たちが無事に立てたこと、仲間との素敵な想い出をまた一つ増やせたことに本当に感謝しています。

3年生パフォーマンスは、4年生の卒業公演の出発点であると思います。これからまた新たな課題に向かって研究室のみなで力を合わせ、共に頑張っていきたいと強く思いました。

最後に、この3年生パフォーマンスが成功するようご指導下さった先生方、サポートして下さいったスタッフの皆さま、本当に有難うございました。



安保奈々子(4年) 高野研究室

3年生パフォーマンスは、舞踊学専攻にとっても大切な舞台の1つである。1年生のときには3年生があまりに遠く、まだまだだと思っていた。しかし気づけば2年生が終わり、研究室が決まって3年生が始まった。そして今、あっという間に4年生になってしまった。私は高野研究室に所属している。3年生パフォーマンスでは振付を担当させて頂いた。作品のテーマにしたのは、人工知能(AI)。今後どうなっていくのかわからないAI(モノ)に、人が人であることを重宝しながらどう扱っていくのかということ問いかけた作品である。

夏休み前から本格的に創作し始め、頭の中は常に3年生パフォーマンスのことでいっぱいだった。沢山悩み、大変だったことの方が多かった。しかし、今となってはそれも全部楽しい思い出となっており、大切な作品そして大切な仲間が出来たことを嬉しく思う。

次は卒業公演である。普段から明るく元気いっぱいな20人が集まるとまるで動物園のような2016B高野研究室だが、意見が飛び交い、みんなで高め合っている仲間である。あと一年。きっとこれまで以上にあっという間に終わってしまうと思う。貴重な時間を一刻も無駄にすることなく、やりきりたい。



兵藤茶織(4年) 松山研究室

3年生パフォーマンスは、2年生までの「クラス」という枠組みではなく、「研究室」として初めての活動でした。今まで交わることのなかった人達と関わりながら作っていく作品。9人という少ない人数でしたが、一人一人の表情がはっきりと見えるからこそ、最初はどこか顔色を見て遠慮してしまい、思うようにいかなかったり、自分の実力不足を痛感し、大学に来て初めて本気で悩みました。些細なことから大きなことまで、ここに書ききれないくらい沢山の楽しいこと、大変なことがありましたが、確実に言えるのは松山研究室がこの個性豊かなメンバーで本当に良かったということです。

今回私は振付者の一員として作品に携わりました。私は仲間から刺激を受けることばかりで、力になれずもどかしい思いもしましたが、一緒に振付けをした二人に沢山引っ張ってもらい作品が完成しました。振付者の二人をはじめ、一緒に踊った8人、そして最後までご指導下さった松山先生には本当に感謝しています。

マイペースで個性豊かなこの9人だから生まれた作品。松山研究室としての初舞台は正に完全燃焼でした。卒業公演もこのメンバーでまた更にどんな化学反応が起きるのかとワクワクしています。



長澤溪(4年) 石川研究室

ジャズダンスの作品作りは、テーマやコンセプトから決めていく他のジャンルとは違い、まず音楽・曲決めからスタートします。そのため、どんな雰囲気曲の曲を使いたいのかということ話し合い、具体的に使いたい音楽・曲を全員で持ち寄り提案するところから研究室の活動が始まりました。作品の大部分は音楽で決まってしまう。全員が納得できるように何度も話し合うため、当初の予定よりも話し合いにかかる時間が多くなってしまいました。しかし、この話し合いでつまずいてしまうと何か月後かの実際の作品作りに影響が出てきます。3年生パフォーマンスの進行具合を踏まえ、卒業公演でもある程度の時間をかけて話し合いを進めていくことが必要になっていくと感じました。

例年よりも人数が少ない石川研究室。全員が役割を持ち、責任ある行動をすることが求められます。それぞれが研究室のために行動することを意識し、卒業公演に向けて気持ちを一つにしていくことが重要になります。3年生パフォーマンスの反省を活かしつつ、気持ちを新たに、石川研究室一丸となって卒業公演まで走り抜けていきたいと思っています。



平田祐香(4年) 岩淵研究室

「網膜の影」という20分間のコンテンポラリーダンス作品。昨年の4月、私たち岩淵研究室が集まった瞬間から、創作はスタートしていました。主ジャンルも違えば、踊っている環境もさまざまな16人が、1人ひとり思い描いた「イメージ」となる題材をプレゼンし、そこから選び抜いたものを20分間の作品という「形」にしていく。その中で1番苦しんだことは、《全員でつくる》こと。忙しい部活動やお稽古場と両立しているメンバーも中にはいますが、言い訳も妥協もしないのが私たち岩淵研究室であり、だからこそ、全員の脳みそでつくりあげたものを全員で踊ることにこだわり、動いていきました。プレゼンからひと夏越えて練習に約半年かけて迎えた本番には、言い表しような無い感動が待っていて、沢山の障害もありましたが、指導して下さいた岩淵先生には感謝の気持ちで一杯です。

余談ですが7月ごろからスキルアップと称して倒立トレーニングなるものを実施しました。30秒からスタートして、10月末にはみんな2分間逆さまでも耐えられる筋力を体得しました。そんな岩淵研究室は笑えるほどストイックで、ダンスが大好きな集団です。卒業公演も頑張って参りたいと思います。ありがとうございました。



山上莉穂(4年) 渡辺研究室

渡辺研究室の山上莉穂です。昨年11月4日に本学で行われました三年生パフォーマンスが無事終演出来ましたことに達成感と安堵の気持ちを持つとともに、舞台に携わって下さった全ての方々へ心から感謝致します。

私達は「カラスアゲハ」と「魔法」をテーマとし、物語性を強調した作品を作りました。8人全員が作品と向き合い、同じ方向を向いて、少しでも良い作品になるようにと、日々の練習では自らのアイディアを出し合い一人一人の努力を積み重ねました。想像以上の作品となりました。そして集団で一つの作品を作っていくなかで私自身感じたことがありました。仲間同士でコミュニケーションを取ることの大切さです。それは練習前後の何気ない会話から始まるもので、一人一人のことを知り、お互いの意見に耳を傾けることで信頼関係を

作ることが出来るのです。また信頼関係は作品にも反映されるため、仲間同士尊重し合い、まずは私達の気持ちを一つにしなければ観ている方々の心に響く作品は出来ないと思いました。次は卒業公演となりますが、私たちにしか作り出すことの出来ない最高の作品を皆様にお届けしたいと思います。そして渡辺研究室の仲間たちは私の誇りです。



正課活動

佐々木涼子(4年) 舞踊学専攻 卒論発表会

何がしたいのか、何が好きなのか、何に興味があるのか、なぜか。論文の活動は実技とはまた違う方向から自分の中にあるものと対峙して徹底的に追求できる素晴らしい機会の一つだと改めて感じました。

今回の卒論発表会に参加して、長時間をかけて研究してきたことを制限時間のある中でまとめることは非常に難しいことだと思いました。しかし、これはダンスにおいても同じことが言えるのではないのでしょうか。どれだけ作品に熱量を注いできたのか本番の短い時間で伝わってくることと、どれだけ研究に時間をかけて準備してきたのかということとはどこか近いところにあると思います。まだ私には良い作品(論文)が何かわかりませんが、自分がやりたいこと、考えたいことに悔いがないよう時間をかけて向き合っていきたいです。

また、卒業論文発表会は長時間に及ぶ全員参加の活動です。1人でも多くの参加者が来て良かった、言葉で舞踊を研究することもまた面白いかもしれない、と思っていただけの発表ができるように内容の充実と分りやすさ、そして魅せ方にこだわって準備をしていきたいと思っています。



3年生パフォーマンス

浦島優奈(3年) 舞台監督

私は、2018年の3年生パフォーマンスで舞台監督を務めました。役職が決まった時、いつも近くで見ていた先輩たちの舞台を絶対に成功させたいという気持ちと、自分がみんなの指揮を執ることに対しての不安でいっぱいになりました。大変なこともたくさんありましたが、本当にたくさんのことを学び、いつも自分がたっている舞台もたくさんのスタッフさんのおかげで成り立っていて、それを当たり前と思ってはいけなかったことを身に染みて感じました。得たものはすごく大きかったです。そして、スタッフを学生がやるということがすごく良いことだと思いました。学外の舞台ではプロの方が担当している仕事であり、自分たちでやる機会なんてほぼないので、とてもいい経験になります。また、スタッフを経験したことによって、舞台に対する姿勢も私は少し変わったと思います。照明や音響など、普段では触ることのない機材や、リノリウムを巻いたり貼ったりする作業など、これもスタッフさんがやっていたのだと発見も多かったです。そして、このように学生がスタッフの仕事を経験できるのは、大学非常勤講師の照明を教えてくださいと宇野さんやたくさんフォローして下さった助手さんや先生方のおかげであり、とても感謝しています。





A large group of young women, likely members of a dance or sports team, are posing for a group photo in a gymnasium. They are arranged in several rows, with some sitting on the floor in the front and others standing behind them. Most of the women are wearing bright red long-sleeved shirts or jackets, while a few are wearing black or dark-colored clothing. They are all smiling and making peace signs with their hands. The background shows a wooden gymnasium floor, a large clock on the wall, and some equipment like speakers and cables hanging from the ceiling.



外部活動

見城香椰子(4年) 2018年度 アメリカ フィラデルフィア・NY舞踊研修旅行

私は、2/13～2/22の8泊10日間フィラデルフィア研修旅行に参加しました。自分の大学生活の中で少しでも海外の空気を吸って、自分のこれからのダンス人生の糧にしたいと思いました。行くからには自分の今までのダンスに対しての概念を変えたいという決意がありました。

現地大学の授業では1日に多くて4コマの授業を受けました。全て1時間半の実技レッスンだったため体力的には厳しかったけれど刺激的な空間でした。現地学生は私たちを温かく受け入れてくれて言葉が通じなくても「踊る」ということで沢山のコミュニケーションを取れました。授業が始まると現地学生の集中力の高さや振り覚えの早さや身体能力の高さにとても驚き、積極的に先生に質問をしていて意欲的な姿勢がとても印象的でした。大学での授業の他に週末に2日間ニューヨークへ行き、観光をしつつもダンススタジオBDCでレッスンを受けました。周りのダンサーを見るとやはり日本人にはないパッションと可動範囲の広さに驚きました。JAZZ-FUNKレッスンは日本人の女性ダンサーの先生でこのレッスンが一番印象に残っており、動きが大胆な部分と繊細な部分が混じっていてその強弱をつけるのが難しかったです。夜にはブ

ロードウェイミュージカルの「アラジン」を鑑賞しました。日本の劇場とは比べ物にならないくらい広く、開演すると観客のボルテージが一気に上がり会場の歓声など日本と違いとても自由で衝撃的でした。ニューヨークは、2日間では足りないくらい充実した時間でした。

海外に出て現地の空気を吸い、現地の人に触れて、文化や育ってきた地も異なるところでダンスを学ぶことができ、この機会を与えてくださった全ての方々に感謝をしなければいけないと思いました。

今回得たこの多くの経験は確実に将来自分がダンサーや1人の人間として生きるための糧になりました。大学の仲間と行ったことが更なる刺激になりとても濃い充実した10日間でした。

新入生の言葉

石井千夏(1年) A1クラス

入学式から2週間が経ち、少しずつ女での大学生活にも慣れてきました。全国各地から集まった個性豊かな仲間たちと様々な分野や方面から舞踊を学ぶことができるこの学校で、4年間自分をどこまで追い込むことができるのか、そして成長することができるのか、とてもワクワクした気持ちでいっぱいです。

私自身、タップやジャズは幼少から続けていますが、バレエやコンテは経験も浅く、ヒップホップは正直苦手です。しかし、デートするならジムに行くと言っている石川先生率いる我がA1クラスには、様々な分野のお互いを高めていけそうな仲間達が揃っています。そうかと思えば、不思議な人、可愛い愛されキャラ、姉さん頼みます的な人(笑)様々ですが、とにかく明るい!!楽しい!!チームワーク抜群!!!なクラスだと思っています。

SHOWCASEの練習が始まり、素敵な先輩から色々なことを教えていただき、A1、18人で初の舞台に向けて精一杯頑張っていきたいと思います!



梶浦夏歌(1年) A2クラス

名前のあいうえお順で偶然一緒にいるクラスになった私達。住んでいる場所も踊りのジャンルもバラバラの私達が「クラス」という形で結ばれ今、大学生活を共にしています。

A2は元気で礼儀正しく、たくさんの刺激を与えてくれて自分を高めてくれるクラスです。

大学の授業は今までとは違い、全て自分で選択しなければならず、分からないことが沢山あります。そんな時、頼りになるのはやはりクラスメイトです。最初は偶然一緒にいるクラスになった私達ですが、今では大学生活が楽しく過ごしているのはクラスメイトの助けがあるからです。感謝しています。

舞踊学専攻は毎日踊り漬けで正直心が折れそうになる時もありますが、皆将来の夢や目標、なりたい自分に近づく為に毎日が挑戦の日々です。4年間はぼーっとしていたらあつという間に過ぎていきます。4年間で如何に全力で踊りと向き合えるか、そして踊りと思う存分向き合える学校に通っている私達はとても恵まれていると思います。4年後に今より成長した自分に出会えるように、A2の皆と大学生活を全力で過ごしていきたいと思っています。



佐々木季和(1年) A3クラス

この大学に入学して2週間が経ちました。新しい環境に期待と不安が入り混じりながら迎えた新生活。踊ることが好きという共通点を持った仲間と出会い、実技や座学と充実した毎日を過ごすことができている。

私は今まで新体操しかやってこなかったのですが、ここに来てそれぞれ専門の舞踊を経験してきた友達と出会い、授業を通してたくさんの刺激を受けています。

そして、1年生として夏のSHOWCASEが大学での初舞台となります。それに向けての練習が始まり、いっそう楽しみが大きくなりました。A3クラスは、ダンスのジャンルが幅広く明るい笑顔の絶えないクラスです。メンバー同士も仲が良く、この取り組みの中でさらに友情が深まれば良いなと思います。また、振り付けをして下さる先輩方も私たちのために一生懸命振りを考え、指導して下さいます。先輩方とクラスメイト全員で1つの作品を素晴らしいものにするべく、踊れることに喜びと楽しさを感じながら頑張っていきたいと思っています。



時枝晴香(1年) B1クラス

憧れだった日本女子体育大学に入学して、早2週間がたちました。最初は色々と不安でしたが、友達もでき、授業や周りの環境にも慣れて、とても充実した毎日を送っています。

私がいるB1クラスには、コンテンポラリーダンス、クラシックバレエ、モダンバレエ、ストリートダンスなど色々なジャンルの人達が集まっています。お互い初めてのジャンルを教えあって実技の振りを確かめ合ったり、分かるまで練習に付き合ったり、とても個性的ですが根は真面目で優しい人達ばかりです。最初から個性的だったので、話しかけるのに緊張しましたが、すぐに打ち解けることができました。また、ジャンルも違うので踊り方や考え方の違いも見えて面白いです。

夏に行われるSHOWCASEでは、3年生の先輩方が私たち1年生に振り付けをしてくださいます。振りを作ってください先輩方と共にクラス1人1人の個性を最大限に出してB1ワールド全開で楽しく踊りきれたいと思います!そのためには皆さんの苦しい筋トレと柔軟で体を作るところからはじめなければなりません!努力家が多いクラスでもあるので皆で団結して頑張っていきたいです!!



中村日和(1年) B2クラス

日本女子体育大学に入学して2週間が経ち、授業やSHOWCASEの練習なども本格的に始まりました。様々なジャンルがある実技科目では、毎授業、周りのみんなの違った一面を見ることができ、たくさんの刺激を受け、向上心を高められる素敵な環境にいることを日々実感しています。

入学以前は正直、体育大学の授業といえば実技科目のイメージが強かったのですが、実際に座学の授業を受けてみると、とても興味深く有意義な授業だと実感しました。体の構造やダンスというものを頭で考え、理解することにより、実際に踊る時に活かせることを多く発見することができています。

B2クラスは出会ったばかりで正直まだお互い探り探りの部分もありますが、SHOWCASEの練習などダンスのことにになるとみんな積極的に意見を出し合うようになり、みんなダンスが大好きなんだと感じることが出来ます。教養演習の時間にみんなの夢や目標を聞いた時に、みんなそれぞれの形でダンスを職業にしようとしていてもっと深く話してみたいと思いました。7月のSHOWCASEに向けて先輩方や先生方のご協力のもと、みんなで一致団結し素敵な作品を創っていきます。



山下萌花(1年) B3クラス

憧れである日本女子体育大学に入学し、2週間が経ちました。ようやく大学生活にも慣れてきた頃ですが、初めは慣れない生活や知らない人達と一緒に授業を受けることがとても不安でした。

クラスのメンバーは明朗快活で非常に素敵な子が多くいます。この学校を選ばせて頂いたきっかけは、先輩方や自分たちの先生に憧れたのももちろんのこと、今まで自分がやってきたジャンルのレベルアップを図り、それと同時に、様々なジャンルにふれてみたい、ダンスが好きな人達と一緒に学びたいと強く思ったことにあります。将来の夢を叶えるために集まったメンバーと、この日本女子体育大学で生活を共にできることが楽しみで仕方ありません。

そんなメンバーと頑張りたいことは、今までにやったことのあるジャンルの向上。また、新しいジャンルに挑戦して自分にあった得意分野を見つけること。さらに、幅広いダンスを学び、言葉がなくても見ている人たちにダンスの素晴らしさ、感動を与えることができるダンサーになりたいと思っています。

夏には初めてのSHOWCASEがあります。そのSHOWCASEに向けて身も心も早く成長して、先輩方が思い描いている作品に少しでも近づけるよう、少ない時間を集中して毎日精進して参りたいと思います。



宮嶋かな子(院1年) 大学院

私は、昨年度日本女子体育大学を卒業し、4月に日本女子体育大学大学院に進学致しました。授業が始まり1週間が経過しましたが、少人数制で専門性が高く、学び甲斐のある授業が展開されており、志の高い8名の同期と共に充実した日々を送っています。

大学院では、研究活動が学習のメインとなります。私は『音楽のリズムとダンスのリズムの関係性』という学部で行っていた研究を、大学院でさらに深めていきたいと考えています。この研究を通して、舞踊が音楽を用いて踊られることが多い理由を、少しでも紐解いていきたいと思っています。そのためにもまずは、先行研究を広く渉猟し、専門知識を身に付けた上で論じることができるよう準備をしていきたいです。

2年生の先輩方の背中を見ていると「来年の今頃、自分はあの様になれるのか」と、不安を感じることも多々あります。ですが、今の自分にできることは目の前の課題を1つずつクリアしていくことだと思っています。先輩方や同期に学びながら、努力を積み重ねていきたいです。

学部の4年間は瞬く間に過ぎてしまいましたが、大学院の2年間は更にあっという間に感じるのではないかと思います。日々を大切に勉学や研究活動に励んでいきたいです。





編集後記

田中蘭・松本真里菜(3年)

最後までご覧頂きありがとうございます。今年度編集担当になりました、田中と松本です。このダンスレターを編集している際、この大学の活動の多様さや魅力を改めて感じることができました。ダンスレターを通じてニチジョウの魅力を発信していきたいと思います。1年間宜しくお願い致します。



NEWS

【第80回ダンス・ワーク・セミナー】

2019. 8.16 (金)、17 (土)@本学 総合体育館多目的ホール 他
※このセミナーで試験対策となるソロ作品の作り方を教授します。

【第72回全日本中学校・高等学校ダンスコンクール】

2019.11.23 (土・祝)@メルパルク TOKYO

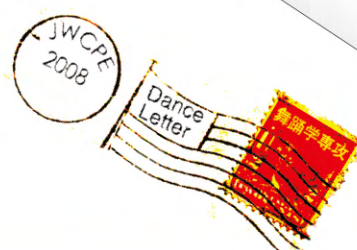
【3年生パフォーマンス】

2019.11.3 (日)@本学 総合体育館多目的ホール

【第18回舞踊学専攻卒業公演】

2020.1.21 (火)@府中の森芸術劇場 どりーむホール





発行
〒157-8565 東京都世田谷区北烏山8-19-1
日本女子体育大学 運動科学科 舞踊学専攻
発行日:2019年6月9日

<http://www.jwcpe.ac.jp/>